



なちばな

一般社団法人
日本ボーイスカウト
静岡県連盟

420-0839
静岡市葵区鷹匠1-12-1
静鉄青葉園ビル305号



我ら、若き指導者！（清水地区）

CONTENTS

年頭のご挨拶.....2	野営法研修会.....10
静岡県連盟 連盟長 鈴木 康友 氏	WBリユニオン・スカウトコースリユニオン.....11
静岡県連盟 理事長 戸田 正明 氏	スカウト通信.....12
伊豆地区 JOTA-JOTI.....4	静岡地区 めざせポケモントレーナー.....13
令和7年度 団委員長サロン雑感.....5	「友情章」おめでとう53名の仲間.....14
掛川第2団 ビーバー隊 さつまいもクッキング!.....6	進級者紹介.....15
浜松東地区大会.....7	マスコミコーナー.....15
清水地区 若き指導者.....8	

令和8年1月
第182号



年頭所感

一般社団法人
日本ボーイスカウト静岡県連盟 連盟長

鈴木 康友

明けましておめでとうございます。

日本ボーイスカウト静岡県連盟の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、「変化を厭わず時代に即した見せるスカウティングの展開」をスローガンに、100年を超える歴史と伝統を誇りにしつつ、時代に即した新しいプログラムを展開することで、視野を広げ、多くの仲間との絆を深められたことを喜ばしく思います。

本年は、8月に広島県神石高原町にて「第19回日本スカウトジャンボリー」が開催されます。4年に一度、国内外からスカウトと指導者が集うこの大会に、静岡県連盟からも380名が参加いたします。スカウト教育の基本を重視した質の高い活動を通じて、スカウト同士の友情の絆を結び、「ちかい」と「おきて」の実践を促進する機会になることを期待しております。

本県が目標として掲げる「幸福度日本一の静岡県」の実現には、次世代を担う健全な青少年の育成を目的とするスカウト活動が大きく寄与するものがあります。本年も静岡県連盟の活動を通じて、本県の青少年健全育成に一層のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げ、年頭の挨拶いたします。



年頭所感

一般社団法人
日本ボーイスカウト静岡県連盟 理事長

戸田 正明

新年おめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新たな年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、県連事務局の移転や新組織、新体制での運営など大変忙しく目まぐるしい年になりました。関係各位の御協力に改めて御礼申し上げます。

さて、今年の夏は広島県神石高原町におきまして、第19回日本スカウトジャンボリーが開催されます。従前とは異なり、限られた狭いスペースで少人数でのジャンボリーになりますが、スカウトの皆さんには日頃の訓練の成果を十分に発揮し、ジャンボリーを大いに楽しむと共に更に成長していただくことを期待しています。

指導者の皆様には猛暑の中、長い屋外生活となりますが、十分に健康に留意されご奉仕いただくようお願い致します。

話は変わりますが、2年後の2028年には、静岡県の朝霧高原におきまして、第四回東海四県合同野営大会を開催する事が決定しました。こちらは大勢のスカウトの皆さんに参加していただき様々なプログラムに挑戦し大いに楽しんで欲しいと思います。また、指導者の皆様には様々な形でご協力いただきますよう深くお願い申し上げます。静岡県連盟の底力を発揮させ、静岡県連盟の更なる繁栄に向け、共に頑張りましょう。スカウト人口減少や指導者の高齢化など課題は様々ありますが、私たちは歩みを止めることはできません。私たちは私たちの信ずるスカウティングの理念をひたすらまっすぐに進み、環境の変化に柔軟に対応し「おきて」に書かれている人に自然に育つよう努力していきましょう。

何回も申し上げますが、ボーイスカウトに入ると、誠実で素直になれる、友達が沢山できる、礼儀正しくて親切になれる、そんな人をたくさん育て社会からの信用、信頼を一層深めていきましょう。

世界の仲間と
交信体験
してみよう!

伊豆
地区

Hello世界の友達!

JOTA-JOTi 2025

■令和7年10月17日~19日

JOTA編

伊豆地区 三島第5団

カブ隊 松本 燿(ひかる)

JOTAにさんかして、遠くにいる人とお話できたのが、すごく楽しかったです!無線を使って話をするのは初めてだったのでドキドキしました。私の学校で流行っている遊びや好きなことを、がんばって伝えました。しがけんの人は、びわ湖の近くに住んでいると教えてくれました。目に見えない電波で、遠くの人とすぐにお話ができることがとてもふしぎでした。もっといろんな県の人と交信して、たくさんの人とお話したいです。来年も絶対やりたいです!



JOTA編

伊豆地区 三島第5団

ボーイ隊 野田 千晶

今回のJOTAに参加して一番記憶に残っているものは無線を使った通信です。何やら大きな機械が置かれた机の周りは映画でも見ているようでとても格好いいと思いました。

きちんと話せるか不安で、外国の方と当たりそうなときはヒヤヒヤしました。結局は日本の方と当たりちょっとほっとしました。名前、学校名など伝えるときは、例えば「あ」なら「朝日(あさひ)」の「あ」など伝えることを知り驚きました。JOTAに参加して、無線通信がどういうものなのか詳しく知ることができました。とても楽しかったし貴重な体験になりました。今回の通信を正しく利用するための資格があると知りました。私も勉強できたらいいなと思いました。また機会があれば体験してみたいです。



JOTi編

大仁第1団 ビーバー隊・三島第5団 ビーバー隊

- 緊張したけど、外国の人とお話できてうれしかったです。また、お話したいです。
- いろんな国があるんだなと思いました。
- オーストラリアとブルガリアのスカウトとあえてうれしかったです。

函南第2団 ボーイ隊・大仁第1団 ボーイ隊

- 海外の同じ年代のスカウトの仲間と会えたことが嬉しかったです。
- もっと英語を勉強しようと思います。
- 自己紹介の英文を自分で作るのが少し難しかったです。
- 簡単な英文を作れるように英語の勉強を頑張りたいです。
- もっと英語を学び、たくさんの国や地域と話をしたいです。

令和7年度 団委員長サロン 雑感

伊豆地区 三島第5団 団委員長 木村 利春



9月13日(土)あざれあ501会議室にて実施。各地区・各団が指導者不足という問題を抱えるなかで、地区内の指導者の確保と資質向上を推進する主旨のもと、団委員長として参加させていただきました。

講師には皆様もご存じの「図解で分かるAISポリシー超入門」等の編集に携わる日本連盟AIS委員である富永和也LTをお迎えしての団委員長サロン。あのイラストの雰囲気が和やかで好きです。

研修教材として皆様も既に入手されていると存じますが「指導者のRecruit -保護者編-」を活用し(当該研修が初お目見え!、とのこと)、保護者とのコミュニケーションを如何に図るべきか、等々を学習させていただきました。

一例としてコミュニケーションの基本である「伝達」=『伝え』『達する』→【達していないことは相手に残らない…】自身を翻って見て要再認識とする多くの気づきをいただきました。スカウト教育運営単位である団の責任者として更なる自己研鑽と良きフィードバックをしていく所存です。



追記:

当該研修教材と日本連盟HPへリリースされたもののP29イラストに相違が無く、その柔軟性に嬉しくなっていました(笑)。



掛川第2団 ビーバー隊

さつまいもクッキング!

■令和7年10月26日(日) ■一色集会場

掛川第2団 ビーバー隊 隊長 橋本 美加子

秋と言えばサツマイモ。今日はサツマイモを使ったクッキングに挑戦です。サツマイモをふかしている間は、サツマイモクイズ&サツマイモ運びリレーで盛り上がり、ほかほかのサツマイモが出てきたら調理の開始!皮をむいて潰して、片栗粉や牛乳、砂糖を混ぜて丸めます。お好みでチーズやチョコを入れたものも。

「ボウルを押さえて!」「一緒にやろう!」「美味しいね!」美味しいものを囲めば、自然と力をあわせ、えがおが生まれて……。焼けたサツマイモもちを食べる頃にはみんな笑顔で大満足!あっという間に平らげてしまいました。

またひとつ仲良くなったスカウトたち。次からの活動も楽しみです。



浜松東地区
大会

てんでんこー!

「地震だー、危ない、津波が来るぞ!」
「いのち山へ逃げよ!」

浜松東地区 地区委員長 稲野 吉弘



2025年10月19日(日)浜松東地区大会が始まった。テーマは“そなえよつねに”、いざという時のための訓練の一環で始めた避難マウンドへの駆け上がり。

海拔13.5m、遠州灘海浜公園内、総勢250余名。太平洋側に位置する浜松、近年予測されている大地震に伴う津波被害は脅威です、このような地域社会課題に正面から向き合い、その時に備え、ボーイスカウトは応えていこうとしています。



『てんでんこー!』古くから地震が来たら、なにをいってもてんでに命を守る行動にでよとの言い伝えです、逃げる先は高さのある山、「いのち山」といわれています。

当日は天気良好、ご来賓の静岡県連盟理事長、静岡県コミッショナー、近接地区委員長にもご参加いただき、しっかりと観ていただきました。

午前中は、スカウト、指導者の前年度顕彰、体験としての避難マウンドへの駆け上がり、午後には、各部門に分かれ被災時の生活体験、応急処置、救急搬送などゲーム要素をとりいれ防災技能を楽しみながらの体験活動を行いました。

静岡県は東海地震が叫ばれて数十年、地域住民の地震災害への意識も高く、昨今では南海トラフ地震予測が緊迫度をさらに高めています、かつて大正時代の末期におこった関東大震災では、ボーイスカウトが震災後活躍した記述が残されています。震災直後の活動は無理にしても、災害後の生活支援などで、行政関連、地域防災との密な連携が望ま



いと考えます。そして社会課題に貢献するボーイスカウトとして、時代はまさにボーイスカウト運動への期待は増すばかりです。

災害時の様々な場面を想定した体験をきっかけに“そなえよつねに”の精神が身につくきっかけとなることを期待いた



若き指導者 清水地区指導者対談

対 談

取材日:11月23日(日)午後
 会 場:興津宗像神社
 対象者:橋本香代子(清水第 8 団)
 鍋田 匠 (清水第17団)
 永井 力 (清水第 7 団)

『我ら、清水地区
若き指導者!』

藤田:本日は清水地区の「若き指導者対談」に参加をいただき、いろいろ語っていききたいと思います。今回参加の3名全員がスカウト経験者です。まず、ボーイスカウトに加盟したのはじめのきっかけは何ですか？

永井:知り合いが7団の隊長で小学生に上がる前から「1年生になったらビーバーになるんだぞ」と言い聞かされていました。小学生になってからイベントに参加して自分自身もボーイスカウトに興味を持ちました。

橋本:入っていたガールスカウトが休団となり、兄が入っていたボーイスカウトに女子が入団できるようになったことから小学6年から入団しました。

鍋田:家族に連れられて、活動に参加したのがきっかけです。団のBBQだった記憶があります。その後いつの間にか無理やり登録されておりまして。正直最初は全くやる気もなく、活動に行きたくなかったです(笑)。

藤田:そもそも隊指導者になったいきさつは？

永井:ベンチャーを卒業するタイミングで母が隊長になったことから、その手伝いとして団に残る事になり、その後は成り行きで…。

橋本:ベンチャー隊を卒業し、そのまま研修所に行き、指導者になりました。

鍋田:指導者登録した当時は、ボーイスカウト活動から離れていた時期です。正直、自分の追い求めている教育像と何か違うかも、と葛藤していた時期です。しか



鍋田 匠

清水第17団 ボーイ隊 隊長 12NJ参加。
19NSJへ副長として参加予定 公務員。

し教育に関わりたい、と言う将来の夢があったから、何気なく「戻ってこれる居場所」としてあった感じかな。スカウトとして活動していたとき楽しい活動ができたから、縁を切りたくなかった、と言うのもありますね。

藤田:あなたがやりがいを感じるのはどんな時ですか？

永井:集会の前後の子どもの表情や集会の最中の反応、また集会の内容を考えている時にどういう組み立てをしたら子どもが楽しいだろうかと想像をしている時です。

橋本:スカウトの「できた!」の、いい顔を見たときです。

鍋田:本当に些細なことでも、「やった!頑張った!」と言うスカウトの表情が見られるときです。昨年度までカブ隊の隊長だったので、上進したスカウトが、もっとすごいことができるようになったとき、ボーイスカウトを通じて自分の夢を見つけて、自分の力で邁進している姿を見たときです。

藤田:あなたが理想とする隊指導者像と現実のギャップについて教えてください。

永井:理想の指導者像は子どもの機微な心の動きに対応できて、自分も子どもと動いて活動を楽しめる人です。子どもが信用してボーイスカウト以外の事でも困った時に相談してくれる関係性の作れる人が理想です。ギャップは今までのスカウトから実際に相談がほばない事、自分の運動能力が落ちていて子どもの活動に付き合いきれない部分が出てきている事です。

なので、改善のために子どもが上進したりやめる時に直接困ったら相談にのる旨を伝える事と体力向上のために運動の習慣をつけたいと思います。

橋本:カブ隊では、一緒に学び、一緒に体験し、一緒に楽しむ事が出来ればと思いますが、実際スカウトとの距離感が難しい…。副長となると楽しいから、来月も参加しようと思ってもらえる、そしてスマートな隊集会の進行ができるようになります。

鍋田:本来はこうしたかった、こうすればよかった、と言うことは多々あって、その時々自分の言動はどうだったのか、どう関わっていたらよかったのか、等々自問する日々です。理想の隊指導者は声かけのタイミング・手法、表情、声の大きさが適時適切にできないといけない。常に、まだまだ勉強せねば!



橋本香代子

清水第8団 カブ隊 副長 20WSJ参加。
富士スカウト。研修所で知り合った夫との結婚を機に
浜松から清水へ。3人の息子もスカウト。



永井 力

清水第7団 カブ隊 隊長 13NJ参加。

藤田:最後に、清水地区の将来について思うことは何ですか?

永井:私も含め入れ替わりがほばないため、このままでは衰退していくと思います。細かく話すと、地区役員の高齢化と影響力が強すぎるため、古い考え方の押し付けが時代に即さない地区運営や地区行事から脱却できない。隊長の高齢化と卒にはまった集会しかやらないため、スカウトは集会がつまらなく、やめていく。また宣伝効果も低いので入ってこない。隊長の成り手の可能性のある母数が減っているので、30年後くらいには今より世代交代が遅くなる。その結果古い考えを持つ地区役員がまた若手のやり方を潰す。

このサイクルが起こってしまい、清水地区の形を維持できなくなると思う。

早くどこかにメスを入れて、今の形を変えていかないといけないと思います。

橋本:スカウトが増え、楽しくて、充実したスカウト活動が出来ればと思います。

鍋田:もっともっと変わらないといけない、とは思っています。理想があって、現実があって、それを架橋する地区になっていく必要があるのでは。

あと、もっと若手がいて欲しいし、いなぎやいけないし、どんどん世代交代していかなければ。スカウトたちの心に年代に近い立場の人がもっといれば、年代の壁も超えて、ニーズに即した活動や地区の展開ができるのでは。

藤田:本日はお忙しいところお集まりくださりありがとうございました。

令和7年度

野 営 法 研 修 会

日本ボーイスカウト静岡県連盟 指導者養成委員会
委員長 渡邊 聡

11月15日(土)～16日(日)、指導者養成委員会主催の「野営法研修会」を開催しました。この研修会は、県連倉庫に保管されている資機材の管理・整備を目的として毎年行っているものです。今回は、定型訓練などで資機材を使う機会の多いスタッフやスタッフ予定者の参加が少なかったため、今後活用する場面が増えると考えられる指導者の皆様にも広くお声がけしました。

現在、県連倉庫はMOA研修センターと太田山野営場の2か所に設置されています。これまで参加人数が限られる中で、定型訓練コース用資機材の点検を中心に進めてきましたが、ジャンボリー参加隊が持ち帰った資材など、眠ったままの備品が増えているのが現状です。そこで今回は、整理・整備・修理・廃棄を進めるとともに、思い切った処分も視野に入れて作業を行いました。

さらに、資材整備の合間には「今後必要な資機材は何か」「新しく備えた方が良いものは何か」といった意見交換も行い、備品の見直しを検討しました。テントの点検を兼ねた設営研修も実施し、普段テントを立てる機会が少ない指導者にとっては、実践的で楽しい学びの時間になったと思います。

今後、この野営法研修会は備品整備・管理という目的に加え、世代を超えた指導者交流の場として発展させていきたいと考えています。集まった皆さん同士の交流や、プログラムづくりのヒントを共有できる場として、より多くの方に気軽に参加していただければ幸いです。

今回ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。次回も「楽しく学べる研修会」を目指して準備してまいりますので、ぜひご期待ください。





令和7年度

Wood Badgeリユニオン・スカウトコースリユニオン 開催報告

日本ボーイスカウト静岡県連盟 指導者養成委員会 委員長 渡邊 聡

10月4日(土)～5日(日)、静岡県連盟内のウッドバッジ実修所修了者(Wood Badger)と、ウッドバッジ研修所スカウトコース履修者が一堂に会し、「令和7年度ウッドバッジリユニオン・スカウトコースリユニオン」を開催しました。

本リユニオンは、ボーイスカウト活動への理解を深め、仲間同士の親睦を図りながら、静岡県連盟の活動をさらに活発に発展させることを目的としています。

開会セレモニーに続き、戸田静岡県連盟理事長より「スカウティングよもやま話」と題した記念講演をいただき、ボーイスカウトの始まりから日本における歩みを振り返る貴重なお話を伺いました。

さらに、花畑監事からは静岡県連盟旗の三代にわたる変遷について解説があり、私たちの活動が歴史の積み重ねの上にあることを改めて感じることができました。

第一部終了後は入浴でリフレッシュし、第二部では参加者紹介から始まりました。懇談会では、先輩方による「ボーイスカウト自慢の逸品」お披露目会やオークションが行われ、笑い声の絶えない楽しい夜となりました。若い指導者にとっても、先輩方との交流を通じて多くのヒントや気づきを得られる有意義な時間となったと思います。

翌10月5日には、スカウトコースリユニオンの目玉企画「お悩み相談会」を開催しました。事前アンケートで寄せられた質問や課題に対し、10期～15期までのスカウトコースにスタッフとして関わった先輩指導者が懇切丁寧に答えてくださり、参加者にとって今後の活動の大きな励みとなりました。

来年度も全スカウトコース履修者を対象にリユニオンを開催する予定です。1期から15期までの履修者の皆さんにとって、同期会として、スタッフとの交流の場として、またお悩み相談の場として、それぞれの目的で楽しんでいただけるよう準備を進めます。事前アンケートをもとに、皆さんのお役に立てるスタッフを揃える予定ですので、ぜひ来年のリユニオンも楽しみにしてください。

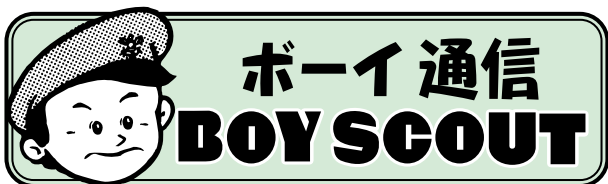
今回ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。来年もまた、笑顔でお会いできることを心から楽しみにしています。



ウッドバッジリユニオン



スカウトコースリユニオン



たくさんの仲間

沼津地区 沼津第4団 ボーイ隊 大竹 利空

今年の活動の思い出や感想といえば、9月13日から15日で三島市箱根の里にて実施された「地区合同野営」が第一に思い浮かびます。この2泊3日のキャンプは班長(地区GB)として準備したことの実践と第19回日本スカウトジャンボリーの参加資格を得ることを目的に実施されました。

その中で私が思ったことはたくさんの人たちとキャンプをすることは楽しいということでした。そんなの当たり前だと思う人がいるかもしれませんが、私の団はボーイ隊が2人しかいないからです。普段は沼津19団と合同で活動していますが、それでも5人しかいません。その様な中、大勢の仲間と交流できることがとても嬉しかったです。

私も普段から大勢の仲間と交流出来ればもっといいのでないかと思い、学校の友達にボーイスカウトに興味を持ってもらおうとボーイスカウトの話をします。これで少しでも



普段の活動がもっと楽しくなることを望んでいます。



はじめての読図ハイキング

富士地区 富士第11団 ボーイ隊 岩邊 蒼介

初めて読図ハイキングをしました。学校では使わないプレートコンパスと地図を使います。

出発前に地図クイズを出してもらって、使い方の確認をしました。

今回は電車に乗って沼津まで行き、地図とコンパスを使って香貫山の展望台を目指します。

自分たちがいいなと思った道を選びながら進みました。途中で二人のおじさんに会いました。一人目は「どこから来たの?」と話しかけられて、緊張してしまいました。二人目は「こっちの道を行くといいよ!」と教えてもらいました。二人ともお子さんがボーイスカウトに加入しているというので、印象に残りました。

展望台に着くと、すごく高くて、海がキレイだなあと思いました。富士市の場所を教えてもらおうと、遠いなあと思いました。彼岸花がいろんな所に咲いていて、隊長に触れるか聞くと、球根に強い毒があるが、花は触っても大丈夫と教えてもらいました。(手は洗ってね!)

帰りは疲れていたもので、近い道を見つけて進むことにしましたが、道が悪くて下りの方が大変でした。読図ハイキングは頭も使ったので、とても疲れました。



32km完歩!!

清水地区 清水第7団 ボーイ隊 緒方 蒼真

ナイトハイクが始まったのは9月中旬の暑さも少しおさまった夜7時でした。

みんな「行ってきます!」と伝え始まった今年のナイトハイク

清水地区 地区キャンポリー参加

清水地区 清水第19団 ビーバー隊 いちかわ みつき

葉っぱのパズルやかみひこうきづくりをして楽しかった。ヤクルトのようきでなりものをつくって、じっさいにみんなのまえではっぴょうできてよかった。ほかの団のスカウトとあそべたのしかった。

清水地区 清水第17団 カブ隊 山梨 空翔

僕はキャンポリーでハイキングが楽しかったです。行きは山を下りました。途中でサウンドスケッチやキムスゲームをやりました。帰りは山を頑張って登りました。登りはすごく大変でした。ゲームの点数が高く、かかった時間が短かったので、隊長賞をもらえました。組の仲間と協力をして、賞をもらえて嬉しかったです。

清水地区 興津第1団 ボーイ隊 古牧 ほのか

三島市立箱根の里で清水地区キャンポリーに参加しました。初日から大雨で、夜はテントの中が濡れて大変でした。普段一緒に活動をしていない地区内の他のスカウトと交流ができ、二泊三日の野営ができたことがとても良かったです。

清水地区 清水第19団 ボーイ隊 杉崎 承太郎

今回、地区キャンポリーで班長を務めて、班長の役目の重要さをより知ることができました。

班員への指示を間違えてしまうと一から作業がやり直しになることもあるので大変でしたが、楽しい経験でした。



は、全員で一緒に歩くという例年とは違った歩き方でした。初参加のビーバー隊のペースに合わせて歩き、5kmほどの時にはいつもより遅いペースからなのか、すでに足首が痛くなっていました。けれど、ビーバーやカブの年下の子たちの前で「すでに足が痛い。」など弱音を吐くことはとても格好悪いと思い、僕は痛みを隠しながら歩きました。

海沿いを歩いてしばらくすると10km地点に到着する事ができました。

ビーバー隊は先に解散し、夜1時には三保の水族館跡地で夜食を食べ、夜3時半頃にはカブ隊の終了予定地の20km地点に到着しました。でもカブ隊の弟は「僕も30キロ歩けるまで挑戦する。」と言いました。

この後も僕は足の痛みを隠しながら色々な話をすることで気を紛らわせて朝5時、清水駅で秋の始まりのきれいな朝焼けの写真を撮りました。

そこから清水インターまで歩き、残るはあと3kmです。カブ隊に合わせて歩くのは歩幅やペースも違うのでとても大変でしたが、僕はカブ隊の弟に負けたくないという思いから痛む足を動かし続けていました。

そうして朝8時過ぎにカブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊の全員で1人もリタイアすることなく32kmを完歩する事ができました。思い返せば途中雨にも降られ大変なナイトハイクでしたが、この最後まで諦めない気持ちを来年開催予定のジャンボリーに活かしたいと思います。

*補足

今回は投稿したスカウトの弟であるカブスカウトが、保護者帯同でもあったため、団として予定変更による長時間のナイトハイクを許可しました。



指導者だより

All Nippon Pinewood Derbyに初参戦

伊豆地区 熱海第11団 団委員長 大山 正晃

熱海第11団ビーバー隊はBSA(スカウティング・アメリカ)極東連盟が主催した、「All Nippon Pinewood Derby」に今年度初参戦しました。パインウッドカーはBSAカブの恒例イベントで、針葉樹の木片をカッコよく切ったり、削ったり、更に好きな色に塗装し、デザイン、出来栄と、坂道を走り降りるタイムを競うものです。今年のDerbyは横田米空軍基地のリクリエーション施設で開催されました。

BSAにはビーバー部門は有りませんがカブ部門が6年制で、アメリカの幼稚園ライオンカブと日本のビーバーは、タイガー・ビーバーレースに参加しました。

当団ビーバー隊の草嶋健斗君は会場で同じ年のライオンカブVreson君と仲良しになり、一緒にレースに臨み、Vreson君が2等賞、健人君が3等賞と好成绩を収め二人で飛び上がってハグ、表彰式では二人並んでトロフィーをゲットしました。当団のカブ隊、ビーバー隊は来年のDerbyに向けて設計図を書き、工作を始めており、健人君はVreson君との再会と、揃って再びの上位入賞を目指しています。



静岡地区でも『ポケモンゲットだぜ!』

静岡地区副コミッショナー 望月ちな美

秋晴れの穏やかな日曜日、駿府城公園で静岡地区の「めざせボーイスカウトポケモントレーナー!」が行われました。カブとビーバー、そして一般参加者71人が14チームに分かれ、協力しながら人助けのミッションをクリアし、ポケモンの世界を堪能しました。スカウト達のポケモンやミッションに対する情熱はさることながら、運営側の指導者・ベンチャー・ボーイのこだわりや熱意が非常に高く、かなり忠実にポケモンの世界観が表現されていました。その甲斐があって一般参加者からも「いつもは家でゲームばかりの子が、野外でみんなと協力する体験がすごく楽しかったみたい」「一緒に行動をしてくれたお姉さん(ベンチャー隊スカウト)が優しく楽しく接してくれて有難かった」などのお声をいただきました。



久々に地区全体が協力しあい、一丸となれた「めざせボーイスカウトポケモントレーナー」。ポケモンたちに感謝しつつ、来年度の開催も楽しみにしたいと思います。





おめでとう!! 53名の仲間が 友情章を授与されました。

「友情章」は、君の友達に「スカウトになろうよ!」と言って、友達がスカウトに入るともらえる章です。

記念品はネームプレートがもらえるよ。次は君が友達を紹介して「友情章」をゲットしよう!

令和7年度「友情章」顕彰者名簿

組織拡充・広報委員会

氏 名	地 区	所 属	氏 名	地 区	所 属
安形 直紀	沼 駿	沼津第19団 ボーイ 隊	加藤 由花凛	志 太	焼津第5団 カブ 隊
丹野 文之信	浜松東	浜松第24団 カブ 隊	今村 真太	志 太	焼津第5団 カブ 隊
徳田 峻祐	浜松東	浜松第24団 カブ 隊	増田 桃花	志 太	焼津第5団 カブ 隊
池富 太紀	浜松東	浜松第30団 カブ 隊	河原田 祐成	伊 豆	三島第5団 ビーバー 隊
西村 遼佑	磐 田	掛川第2団 ビーバー 隊	河原田 悠伽	伊 豆	三島第5団 カブ 隊
伏見 周	磐 田	掛川第2団 カブ 隊	高山 陽希	伊 豆	三島第5団 カブ 隊
足立 大武	富士宮	富士宮第5団 カブ 隊	材津 陽太	伊 豆	三島第5団 カブ 隊
平下 梨心	富士宮	富士宮第5団 ビーバー 隊	堀合 栞帆	伊 豆	大仁第1団 カブ 隊
若林 陽也	富士宮	富士宮第5団 ビーバー 隊	守野 圭悟	伊 豆	大仁第1団 カブ 隊
渡邊 光尊	富士宮	富士宮第5団 ビーバー 隊	浅賀 陽生	伊 豆	大仁第1団 カブ 隊
遠野 葵由	磐 田	掛川第2団 ビーバー 隊	梅原 健	伊 豆	大仁第1団 カブ 隊
酒井 汐梨	伊 豆	三島第5団 ボーイ 隊	植田 英太	伊 豆	大仁第1団 カブ 隊
出野 陽波	浜松東	浜松第15団 カブ 隊	宮城 昌伸	伊 豆	大仁第1団 カブ 隊
西尾 弥伸	浜松東	浜松第15団 カブ 隊	宮城 朋宏	伊 豆	大仁第1団 カブ 隊
菅 聡真	浜松東	浜松第15団 カブ 隊	守野 朱音	伊 豆	大仁第1団 ビーバー 隊
小山 結子	浜松東	浜松第15団 カブ 隊	田邊 碧一	伊 豆	大仁第1団 ビーバー 隊
駒木根 弘騎	磐 田	掛川第2団 カブ 隊	杉岡 良晴	伊 豆	大仁第1団 ビーバー 隊
齊藤 芭奈	浜松東	浜松第6団 ビーバー 隊	坂部 蒼昊	磐 田	掛川第2団 ビーバー 隊
鈴木 瑛	浜松東	浜松第6団 ビーバー 隊	塚本 悠月	島 田	吉田第2団 カブ 隊
中野 廉士郎	浜 松	浜松第14団 カブ 隊	種本 椋太	静 岡	静岡第27団 カブ 隊
矢倉 愛怜菜	静 岡	静岡第22団 ビーバー 隊	青木 美弥真	静 岡	静岡第27団 カブ 隊
梶原 拓朗	清 水	清水第17団 カブ 隊	榎田 栞	島 田	吉田第2団 カブ 隊
山梨 穂乃香	清 水	清水第17団 カブ 隊	榎田 涉	島 田	吉田第2団 ビーバー 隊
西子 颯太郎	清 水	清水第17団 カブ 隊	増田 紬乃	島 田	吉田第2団 ビーバー 隊
作川 一見	清 水	清水第17団 カブ 隊	増田 禾乃	島 田	吉田第2団 ビーバー 隊
北林 亜恋	志 太	焼津第5団 ビーバー 隊	丹野 円二郎	浜松東	浜松第24団 ビーバー 隊
桜井 健汰	志 太	焼津第5団 カブ 隊			



各章に向かって、がんばろう!! 受章者を紹介致します!

ボーイスカウトの進歩制度とは、スカウトの成長の目標となる課目を設定し、進級というステップで、スカウトが発達段階に応じて成長できるようにした制度です。ボーイスカウト隊に入隊するとまず初級スカウト章を取得して段階的に進級を進めます。

●**菊スカウト章**は高度なスカウト技能の他、ボーイスカウト隊の中の活動で、ボランティア活動や野外活動での更なるスキルが認められたスカウトです。

地区名	団名	氏名	進級年月日	地区名	団名	氏名	進級年月日
静岡	静岡第14団	田中 玲早	2025年10月30日	静岡	静岡第22団	戸塚 堆陽	2025年11月22日
静岡	静岡第14団	望月 凜汰朗	2025年10月30日	静岡	静岡第22団	望月 晴斗	2025年11月22日
静岡	静岡第10団	鈴木 連	2025年11月13日	静岡	静岡第22団	小野田健士郎	2025年11月22日
御殿場小山	御殿場第6団	高橋 晴太	2025年11月19日	静岡	静岡第22団	平木 亜実	2025年11月22日

●**隼スカウト章**はスカウト技能を十分に役立てることができ、ジュニアリーダーとしての基本的な隊運営の知識を有し、健全な体と精神を身につけたスカウトです。

地区名	団名	氏名	進級年月日	地区名	団名	氏名	進級年月日
浜松	浜松第12団	ケーラー 一郎	2025年9月27日	静岡	静岡第10団	稲村 亜美	2025年10月2日

●**富士スカウト章**はプロジェクトの計画・実施・報告ができ、奉仕の精神と社会の一員としての責任を持ち、社会貢献を果たせるリーダーとなる資質を身につけたスカウトです。

地区名	団名	氏名	進級年月日	地区名	団名	氏名	進級年月日
浜松	浜松第19団	横井 麻優	2025年9月24日	沼 駿	清水町第7団	松山 龍太郎	2025年11月18日
志太	藤枝第7団	八木 佐和	2025年9月27日	沼 駿	清水町第7団	内田 拓実	2025年11月18日
志太	藤枝第7団	海老名 翼	2025年11月3日				



マスコミコーナー

マスコミ(新聞・雑誌)に掲載された
“スカウト活動の記事”を紹介します。



令和7年11月22日(土) 静岡新聞 掲載



令和7年12月10日(水) 静岡新聞 掲載



令和7年11月28日(金)
伊豆新聞デジタル 掲載



令和7年9月19日(金)
静岡新聞 掲載



令和7年11月28日(金)
伊豆日日新聞 掲載

各地区・団で、新聞又は雑誌などに掲載された記事がありましたらご応募下さい。詳しくは県連事務局まで

ボーイスカウトへのお問い合わせ・入隊希望は

ボーイスカウト静岡県連盟事務局(Tel.054-255-6185)まで
ホームページもご覧ください。<https://bs-shizuoka.com/General/>

編集 日記

本年は8月に広島県神石高原町で第19回日本ジャンボリーが開催されます。スカウト・指導者・保護者の皆さんと共にこの大きな目標に向かってモチベーションを高め、より充実した活動を積み重ねていきましょう。「たちばな」では皆様からの活動取材依頼をお待ちしております。また、ご意見・掲載希望情報など県連事務局までお寄せ下さいますようお願い致します。

広報「たちばな」編集部 杉山文朗

広報 “たちばな” 2026年1月

発行所 一般社団法人 日本ボーイスカウト静岡県連盟
〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠1-12-1
静鉄鷹匠青葉園ビル305号
TEL054-255-6185 FAX054-204-0773
<https://bs-shizuoka.com/General/>

編集責任者 総務委員長 南條 順子
印刷 三富印刷株式会社
静岡県浜松市中央区上新屋町30-1 TEL053-467-4678

発行部数 2,653部

ボーイスカウト運動にご支援くださった皆様です。令和7年9月末

【日本連盟維持会費】

柴田 尚道
杉山 栄BS浜松東地区委員会
BS磐田地区有限会社Sリース
橋本 智弘

【県連盟賛助会費】

川島 一郎
〈以上敬称略〉2026年
夏開催!

第19回 日本スカウトジャンボリー



「広島県神石高原町」にてボーイスカウト最大の祭典!!
日本スカウトジャンボリーが開催されます!

会場 広島県 神石高原町

神石高原町は広島県東部、標高約500mの中国山地に位置し、人口約8,000人、381km²の森林に囲まれた高原の町です。

広島県福山市の中心地・JR福山駅から約38km、山陽自動車道福山東インターから約36km、いずれからも国道182号を経由して車で1時間弱。

中国自動車道の東城インターから車で約27km。30分。

会期 2026年(令和8年)8月4日(火)～10日(月) 6泊7日間

参加者は入場から退場まで6泊7日間をキャンプ生活で過ごします。運営スタッフは参加者より2日前に入場し、1日後に退場するので9泊10日間を基本とします。

参加者

ボーイスカウト及びベンチャースカウトを中心とした参加隊と奉仕スタッフ、8,000人規模で開催し、青年・成人の大会運営スタッフにより運営します。参加者以外にも会場に訪れる見学者の受入れを予定しています。

【ジャンボリー最新情報サイト】

<https://19nsj.scout.or.jp/>

大会テーマソングが2025年9月1日に発表されました。左記のサイトから聞くことも可能です。



たくさんの笑顔ひろげたい、わたしたちはスカウト活動を応援しています。

有限会社 ドリーム観光バス

一般貸切旅客自動車運送事業

DREAM



【本社営業所】駿東郡清水町畑中26-13
TEL.055-946-5361 FAX.055-946-5362
【ホームページアドレス】dream-bus.jp

掲載サイズ 縦 40mm

掲載サイズ 横 80mm

たちばな に広告を載せませんか?

掲載企業・団体募集中!

※広報“たちばな”の広告に関するお問合せはこちらまで。

TEL 054-255-6185

ボーイスカウト静岡県連盟事務局